

障害福祉分野の ICT 導入モデル事業における導入事例

法人名 社会福祉法人 手をつなぐ高岡
事業所名 あ・トーク

1. ICT 機器の製品名 タブレット Apple iPad 64G Wi-Fi モデル 2 台

2. ICT 機器導入前の課題

- ・業務用タブレットが事業所になく、現地に出向き面談しながら、記憶や手書きメモに留め、事務所に帰ってパソコン処理する方法で、ICT 機器の活用が充分進んでいなかった。
- ・利用者の状況等の記録などの日頃の作成資料の電子データ化が十分進んでいない。このため、資料作成等に時間がかかり、本来業務に専念できないことが懸念された。

3. ICT 機器導入の推進方法

- ・法人内のタブレット保有がなく、現地で直接作業したり、面談の相手に資料を示すなど、習熟すれば活用範囲が飛躍的に広がるタブレットの活用を積極的に進めたい。
- ・あ・トークへのタブレット導入は、いろいろな活用方法をモデル的に試行し、法人内への普及をねらいとする。

4. ICT 機器導入後の成果

① 業務効率化について

- ・タブレット導入により、利用者の個別支援計画作成やモニタリング等の記録を電子データ化することにより、職員間の情報共有が進み、データの蓄積により、これまでの支援の経緯がすぐに見られるようになった。
- ・利用者の家族とのやりとりを効率的に行うことができ、意思疎通が円滑化した。

② 職員の負担軽減について

- ・音声入力等の機能をまだ十分に活用できていないが、手書きメモ等、紙ベース文書の削減をある程度、実行することができ、負担軽減に効果があった。

5. 今後の課題

- ・業務の ICT 化の端緒としてパソコンを導入したが、今後、法人の重要な課題である個々の利用者に応じた利用者サービスの向上、工賃アップ、BCP による災害対策、地域への情報発信等を推進したい。
- ・パソコンやタブレット等の ICT 機器の導入により、音声入力機能、面談の際の説明資料作成など最新機能の習熟度を高めたい。
- ・本法人は、10 事業所を擁するため、各事業所との情報共有、情報交換をより充実し、利用者サービスを向上させたい。

6. 写真

